

# 災害時要援護者避難支援制度がスタートします

## 地域で取り組む安全安心なまちづくり

～災害時の避難支援のための台帳作成～  
平成 24 年 2 月より申請の受付を開始します。



地域において、ひとり暮らし高齢者等の避難支援体制づくりを行う「災害時要援護者避難支援制度」がはじまります。  
 災害時に要援護者の支援を行うという共助の精神に基づく地域活動ですので、皆さんのご協力をお願いします。

自力で避難することが困難な災害時要援護者の方から申請をいただき、避難支援等にその情報を提供し、平時の見守りや災害時の避難支援・安否確認に役立てるための制度です。

### 登録できる人

家族などの支援だけでは避難することができない、または家族などの支援を受けられない在宅の方で、自分の住所や名前、本人の状況などの個人情報支援団体等に提供することに同意される次の方を対象とします。

- ①65歳以上の高齢者のみで構成されている世帯
  - ②要介護度3以上の在宅生活者
  - ③身体障がい者(身体障害者手帳1・2級の方および3級の一部の方)
  - ④知的障がい者(療育手帳A所持者)
- ※社会福祉協議会の緊急連絡カードを既に作成している方は申請書の提出は不要です。

施設・病院などに長期入所・入院されている方は対象になりません。

### 申請(台帳登録)方法

登録を希望される方は、登録申請書を二本松市に提出していただくこととなります。

#### 申請書の内容

#### ▽要援護者本人の同意

台帳には個人情報記載されているため、避難支援者等への情報提供についてご本人の同意が必要です。

台帳登録後、市役所から避難支援者・支援組織となる行政区、社会福祉協議会、民生児童委員などの地域団体や、警察署、消防署に要援護者の情報を提供します。

#### ▽避難支援者を決める

避難支援者は登録を希望する方に対する普段からの見守りや、災害時に一緒に避難したりする等の支援をしていただく方です。登録者1人につき2人の支援者に承諾をもらい、申請書に記入願います。申請したからといって、災害の状況によっては、必ず支援を受けられるとは限りません。

支援を希望される方も自分の身は自分で守るという意識を持ち、普段から周囲との交流を図るよう心がけましょう。

 **JAみちのく安達**

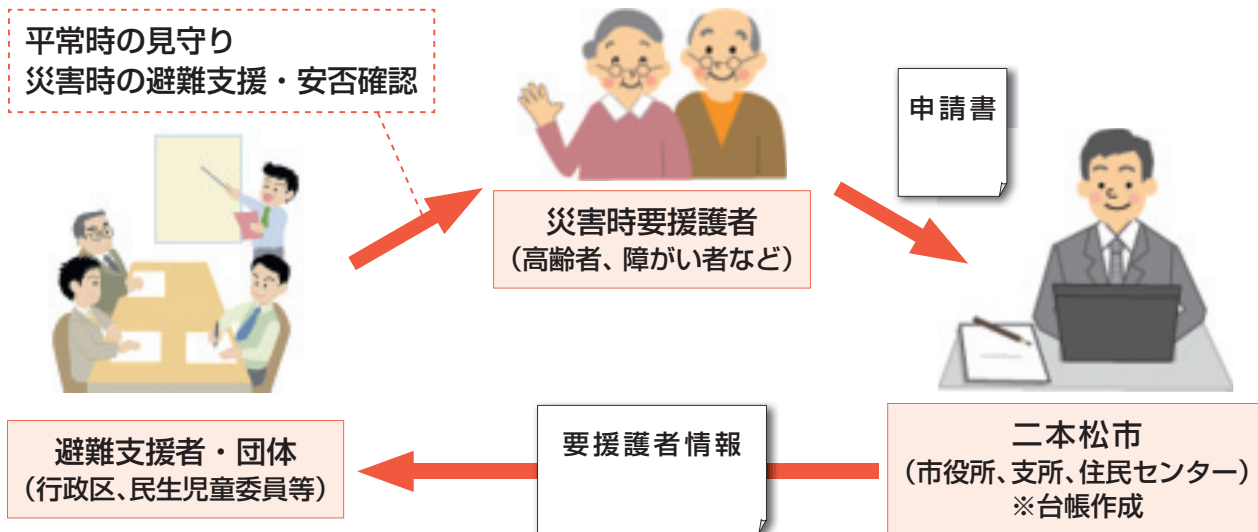
教育ローンキャンペーン実施中ご相談下さい。

## ローンセンター

住宅ローン・災害資金(住宅、宅地等の修繕)取扱中・マイカーローンもご相談下さい

営業時間 平日：午前9時～午後5時 日曜日：午前9時～午後3時 土曜日定休

住所：二本松市成田町1-821-1(二本松支店となり)TEL:24-1127



○平常時

避難支援者の方や支援組織団体の方が自宅を訪問し、身体の状態、災害時における避難場所や緊急連絡先の確認を通して、見守り支援を行います。

○災害時

避難に時間がかかる要援護者が安全に避難できるよう、災害情報を伝達し、避難支援、安否確認等を行います。

避難支援者になられる方へ

避難支援者は、登録を希望する方の隣近所の方々にお問い合わせをすることとなりますが、決して責任を負うものではありません。

普段からよいご近所付き合いを心がけ、その中で支援していただくようお願いするものです。なお、避難支援者についても台帳に記載されません。

不明な点は左記までご相談ください。

◎問い合わせ：

・高齢者、要介護認定者等について

高齡福祉課長寿福祉係  
☎(55)5114

Fax(22)1547

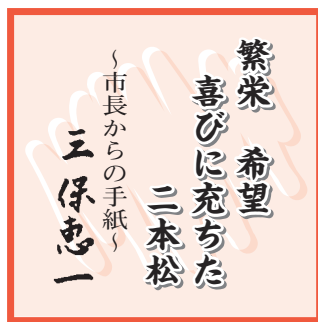
・障がい者等について  
福祉課障がい福祉係  
☎(55)5113

Fax(22)1547

・地域防災について  
生活環境課市民生活係  
☎(55)5102

Fax(22)4479

・各支所地域振興課市民福祉係でもご相談いただけます



子どもを守る。

放射能から市民を守る。

「二本松市放射線被ばく測定センター」を開設。

「ホール・ボディカウンター」は、国立病院機構弘前病院から寄贈頂き、御礼に弘前病院に行ってください。

佐藤年信弘前病院院長から、市の原発事故対策の取り組みの評価や二本松出身で名誉市民、放射線医学の世界的権威者・故高橋信次博士の話を聞かせて頂きました。

高橋博士は、人間を解剖せずに体の奥深くにひそむ病変を探る「X線による生体病理解剖」の研究に没頭、世界で初めて生きている人間を自由に横断面写真撮影する回転撮影法(ロトグラフ)に成功。博士が考案したCTの基本原理、X線回転横断撮影法は「高橋トモグラフィ」と呼ばれ、全世界の医学界にこの面で新機軸を開きノーベル賞に匹敵する業績と世界が注目。

それから二十年後、二十

世紀最大の医学発明「X線コンピュータ・トモグラフィ」が出現しました。

博士が名古屋大学に招聘された際、留任運動が起き、学生十名が名古屋大学に移り、博士の教育を受けた子弟が放射線医学や放射線専門家として活躍しています。赤貧洗うが如し

抜き出したオリジナリテイ、学問研究に一生を捧げた博士に頭がさがります。放射線被ばく、健康影響に係る分析や課題に適切に対応し、健康で安全な活力ある地域社会の形成、発展のために「二本松市と獨協医科大学との連携に関する協定書」を締結、「同大学国際疫学研究室福島分室」をセンター内に設置しました。

稲葉憲之学長から「二本松市の復興を支援する」と力強い挨拶を頂きました。

また、食品による内部被ばくを水際で防止するため「二本松市放射性物質測定センター」で井戸水の検査に続き、野菜や果物、コメ、学校給食の食材など、放射線の測定を市役所でスタートしました。今後、測定機器を増やし検査体制を充実します。

市民の生命と尊厳の尊重、放射能から、子ども、市民を守るために全力を尽くしてまいります。